

岩手郡医報

平成3年2月 No.31
 編集 発行
 岩手郡医師会
 題字 平石町高橋孝先生



新年明けましておめでとうございます。 (西根町大更地内より岩手山をのぞむ)

年頭に当たり、先生方のご健勝を心からお慶び申し上げます。

今年も医療界にとっては、よき年でありますよう祈願致しております。

昨年は、内にあっては天皇のご即位の礼が盛大に举行された慶祝すべき年でありました。外では、沿岸情勢を巡って激動の年でしたが、はたして今年の医界は、どのような年になるか展望してみたいと思います。1月下旬からの通常国会では、医療法改正案・老人保健法案・救急医療制度関連法案等が厚生省提出案として予定されている。

医療法改正案は、前々回の国会から継続審議になっていたもので、21世紀に向かっでの医療に関する理念構築をはじめ、特定機能病院・療養型病床群の医療法上の位置づけ、医療法人の経営近代化等が盛り込まれている。老人保健法改正案では、外来1カ月 1,200円、入院1日 800円、という患者一部負担の案と、公費負担問題が焦点となる。

その他、今年は診療報酬体系の抜本的改革問題も懸念されます。これ等の法案は、他の法案との“からみ”もあり審議が出来るかどうか注目されるところである。

今年は4月初旬に京都で日本医学会総会が、“転換期に立つ医学と医療—創造と調和と信頼—”を主題に開催される。医学と医療の進歩発展のための成功を祈りたい。

厳しい医療環境ではあるが、我々は21世紀に向け漸新なる国民医療制度の早期実現をめざし、更に結束を強めて飛躍の時代にしたいものです。

何卒、今年も格段のご協力とご支援を賜りますことを、心からお願い申し上げますと共に、先生方のご隆盛を祈念申し上げます。

岩手郡医師会長 高橋 牧之介

目次	第42回県医師会親睦ゴルフ大会	嶋 信…7
郡医師会長挨拶……………1	随想 いろいろのいろいろ	高橋 孝……………8
岩手郡医師会理事會記録……………2~3	最近の話題から……………9	
学術講演會 講師 高橋伸一郎先生……………4	新入會員自己紹介……………10	
講師 小沼 富男先生……………5	お知らせ……………10	
平成2年度岩手県民健康講座カリキュラム…6	編集後記……………10	

岩手郡医師会理事会記録

▼ 日 時 平成2年9月20日(木) 午後6:30より

場 所 岩手県医師会館 第3会議室

出席者 高橋牧之介 佐藤郁郎 高橋 孝
西島康之 坂井博毅 瓜田明義
上原充郎 篠村達雅 及川忠人
和田栄吉 根本忠夫 佐々木久夫
嶋 信 佐渡 豊
事務 松本ミツ子

報 告

- 1) 産業医基礎（実施）研修会について
- 2) 盛岡保健所平成2年度病院事務長会議について
- 3) 産業医基礎（前期）研修会について
- 4) 郡市医師会地域医療担当理事連絡協議会について
- 5) 病医院経営セミナーについて
- 6) 第42回岩手県医師会親睦野球大会について
- 7) 郡市医師会長会議について
- 8) その他

協議事項

- 1) 厚生年金基金説明会について
- 2) 平成2年度県民健康講座開催について
- 3) 第43回岩手県医師会親睦野球大会（雫石）開催について
- 4) 行事予定について
- 5) その他

〈報 告〉

- 1) 産業医基礎（実施）研修会について
- 3) 産業医基礎（前期）研修会について
平成2年7月21日(土) 滝沢村の日本アイト
ソープ協会滝沢研究所に約200名が参加し
て研修が行われた。
産業医認定資格は5年毎の更新である。
前期研修会は平成2年7月28日「職場に
おけるメンタルヘルス」について弘前大
名誉教授佐藤先生ほかのお話しが行われ
た。

- 2) 盛岡保健所管内平成2年度病院事務長会
議について

7月30日盛岡地区合同庁舎7階にて行われ、
管内39病院（含歯科医院）より64名が出席
し、医療廃棄物処理ガイドラインの施行、医
療廃棄物の適正処理、医療廃棄物処理の現
状などについて説明があった。

- 4) 郡市医師会地域担当理事會事務連絡協議
会について

8月10日に開催され、医療廃棄物処理の対
応について協議し、郡市医師会、保健所、
市町村の担当課と十分に話し合いをもつこ
となどが話し合われた。

- 5) 病医院経営セミナーについて

8月11日(土) 県医師会館大ホールにおいて
行われ、約120名の参加であった。講師は前
厚生省大臣官房審議官清水康之先生（盛岡
市出身）。

- 6) 第42回県医師会親睦野球大会について

優勝は県立中央病院Aチーム、準優勝は
二回戦で当医師会と対戦した釜石医師会チ
ームであった。

- 7) 郡市医師会長会議について

- ① 岩手県医師連盟の郡市支部設置について
支部をおくことができる…賛成 13
反対 2

- ② 厚生年金基金について

6月30日に設立準備委員会があり、総幹
事会社は大和銀行と決定。

10月12日(金) 午後6時30分より県医師会
館において、幹事の説明会あり。

- ③ 医事紛争共済資金について

- ④ 勤務医会員の移動時の諸問題について
郡市医師会費が各々まちまちであるこ
とが原因している？

〈協 議〉

1) 厚生年金基金説明会について

上述の日程にて行う。

2) 平成2年度県民健康講座開催について

滝沢村にて開催。日程は平成3年1月18日、1月25日、2月1日、2月8日と4回を予定している。(カリキュラムは6ページ参照)

3) 第43回県医師会親睦野球大会開催について

当医師会の担当となり雫石町の町営球場をメイン会場として町内の小中高校のグラウンドを借用し、平成3年8月25日(日)を予定している。開会式には町内小学生のプラスバンドを予定している。

4) 行 事 予 定

11月17日(土) 講演会兼忘年会。松尾村八幡平温泉郷 八幡平ロイヤルホテルにおいて行う予定。

▼日 時 平成2年10月31日(木) 午後6:30より

場 所 岩手県医師会館 第3会議室

主席者 高橋牧之介 高橋 孝 上田靖彦
瓜田明義 上原充郎 西島康之
根本忠夫 及川忠人 坂井博毅
嶋 信

議 題

1) 第2回健康教育委員会について (9/27)

2) 第5回勤務医部会幹事会について一釜石 (10/6)

3) 岩手郡医師会厚生年金基金説明会 (10/12)

4) 「即位礼正殿の儀」の行われる日の休日加算の取り扱いについて

5) 第85回岩手医学会秋季総会・生涯教育講座出席について

6) いわて医師協同組合設立同意並びに出資引き受け書について

7) 地域医療連携推進事業・地域医療研修センターについて

8) 社保診療報酬請求書提出協力日について

9) 行事予定について

10) その他

1) 第2回健康教育委員会について

「高齢者の健康」をメインテーマとして、行われる県民健康講座は、当医師会では平成3年1月18日より4回にわたって滝沢村役場大会議室を会場として行われる。

2) 第5回勤務医部会幹事会について

10月6日(日) 釜石市において開催され、勤務医会員の異動時の諸問題が話題となった。その他釜石地区の救急体制についての報告が行われた。

4) 「即位礼正殿の儀」の行われる日の休日加算の取り扱いについて

11月12日は即位礼正殿の儀が行われるため保険診療上「休日」として取り扱うことになった。

5) 第85回岩手医学会秋季総会・生涯教育講座出席について

11月25日(日) 午後9時より県医師会館大ホールにて講演会が行われる。

6) いわて医師協同組合設立同意並びに出資引き受け書について

7) 地域医療連携推進事業・地域医療研修センターについて

県立中央病院地域医療研修センターに盛岡市、紫波郡、岩手郡の会員の登録医制度の発足を予定している。

8) 社保診療報酬請求書提出協力日について

12月—5日、1月—8日まで

学 術 講 演 会

日 時：平成2年11月17日(土)

場 所：八幡平温泉郷

八幡平ロイヤルホテル



今回の講演会の演者選定にあたり、会長は役員会で本年の後半でもあり、忘年会を兼ねての飲み会として肩の凝らない話題をとということで、自分の従弟に当たる高橋伸一郎先生(脳神経外科)を紹介していただいた。

もう一人の演者は、平成2年3月31日(土)「高脂血症診療の現状」と題してホテル東日本において講演していただいた弘前大学第三内科助教授小沼富男先生で、秋にはもう一度お話しを伺いたいという約束を果たされ、この講演会となった。

特別講演一
プロボクサーになった脳神経外科医の臨床哲学
 東京都春山外科病院 脳神経外科部長 高橋伸一郎

特別講演一

『プロボクサーになった脳神経外科医の臨床哲学』

春山外科病院脳神経外科部長

高橋伸一郎先生



高橋伸一郎先生

高橋伸一郎先生は、本県湯田町の出身で、東京医大出身の脳外科医であり、プロボクサーとしてリングに上り、9年前にはNHKのテレビでも取り上げられ、尚かつプロボクシングジム協栄ジムのトレーナー、コミッションドクターとして数多くのボクサーを育て上げ、中でも具志堅用高選手とか渡嘉敷勝男選手などの世界チャンピオンを相手にして、トレーナーとしての目、及びドクターとしての目をもって彼らを見つめ、数回の世界戦防衛に成

功させたわけであり、それらの話を混じえての講演はわれわれ素人にも非常に興味あるお話であった。元世界チャンピオンの渡嘉敷勝男選手については、高校時代よりケンカ好きの彼を見染め、約3年間自宅に預かって育て上げた話などの苦労話を淡々と語り、いづれ訪れたボクシングを止めるときのことなど裏話も披露してくれた。現在彼は芸能タレントとしてTBSテレビにて活躍中であり、現在のキャスターとしての仕事はプロボクサー時代からその素因が見られたという。

またコミッションドクターとして、いつも一般トレーナーやボクサーに話している意識障害についての医学的知識に関しては、脳外科医として普段現場で立ち向かう救急患者の例をとりながら説明してくれました。（現在都内救急指定病院勤務）その程度に応じてボクサー

特別講演 二

『糖尿病の治療—最近の進歩』

がダウンしたときの後頭部のダメージの大きさにより後障害も大きく、これら脳挫傷により死の転帰をとる例も過去にあったという。今までアマチュア12名、プロボクサー26名の死亡があるという。

話の中で時に若いボクサーにあそこを狙え、ここを見なさいとか、ジャブの出し方や受け身の取り方などにはつい自分もボクサースタイルとなりポーズをとるが、この恰好はやはり様になっている。（失礼？）われわれが構えるのとは全然違うことが数回にわたって見られたことによっても証明された感じである。何はともあれ、本県出身の異例のボクサーとして、またトレーナーとして数多くの日本ランキング或は世界のランキングボクサーを養成してほしいものと切望します。

弘前大学医学部第二内科助教授

小 沼 富 男 先生

引き続き行われた小沼富男先生の講演は、糖尿病とは何かから始まって、糖尿病の分類、糖尿病による眼底所見、糖尿病による合併症などの説明、インスリン療法の実際についてなどを詳しく解説していただいたあと、最近行っているラ氏島の異種移植（ハムスターからラットへの移植、豚からラットへの移植など）の実験成績にも及び結局糖尿病を克服するには、発症早期よりそれぞれに適した治療を厳しく継続することが不可欠である。

以てチーム医療（医師、看護婦、地域保健婦、栄養士、臨床検査士、その他が一体となって）の重要性を説かれ、患者に対しては正しい情報を提供し、患者が主体的、自主的に適正な決定をし、実行することを支援し尊重することであるという教育的指導を行う必要があると結ばれた。

糖尿病について非常に解り易く、内科ばかりでなく、他科の先生にも理解できたものと思われ。また最近の移植医療にも触れられ、これからヒトにも適応が出来るか検討中とのこと興味あるお話であった。



小沼富男 先生



懇親会

当日は11月中旬にしては非常に好天に恵まれ、新雪の岩手山の岩肌もくっきりと見られ、すばらしい光景であった。講演会が終わったあと、両講師を混えて、ロイヤルホテル早池峰の間において懇親会及び忘年会が行われたが、参加予定での欠席者が多かったのか空席が目立った。



平成2年度岩手県民健康講座カリキュラム

(岩手郡滝沢村)

場 所：滝沢村役場大会議室

回	開催年月日	講 座 内 容	時 間	講 師	所 属
1	3. 1.18 (金)	開 講 式	13:00~13:30		盛岡保健所長 岩手郡医師会会長 滝沢村長
		I. 長寿社会と健康	13:30~14:20	牟岐梧樓 岡本 彰	盛岡保健所長
		II. 心の健康	14:20~15:00		玉山岡本病院
2	3. 1.25 (金)	III. 脳卒中の予防	13:00~13:40	柄内秀彦 田村公一 及川忠人	柄内第二病院
		IV. 中高年婦人のプライマリ・ケア	13:40~14:20		田村産婦人科医院
		V. リハビリテーション	14:20~15:00		東八幡平病院
3	3. 2. 1 (金)	VI. 心筋梗塞の予防	13:00~13:40	土井尻健一 主浜 清 山田わか子	土井尻医院
		VII. 滝沢村の保健活動の概要	13:40~14:20		滝沢村保健課長
		VIII. 成人病予防とは小児の時から	14:20~15:00		山田小児科医院
4	3. 2. 8 (金)	IX. 在宅看護	13:00~13:40	大坂茂子 八角正司	盛岡保健所保健婦長
		X. ガンのおはなし	13:40~14:20		八角医院
		閉 講 式 修了証書授与	14:20~15:00		

第24回岩手県医師会親睦ゴルフ大会について

西根町 嶋 信

今年の県医師会親睦ゴルフ大会は、平成29年9月24日(月) (振替休日) 各参加予定者は予め配布されたスタート時間の約30分前には各々登録を済ませるために、今回の会場となった県南の歴史あるゴルフ場花巻町南岩手C・Cにそれぞれ集合した。快晴の秋晴れのもとOUT, INに分かれて4人づつ(或は欠席などのため3人というパーティもある)一斉にスタートした。

OUTのスタートホールはいきなりアップダウンの起伏のあるロングホールであるがここは以前はパー4のミドルホールであった。コースを回っているうちにとても左右が狭隘であり、ドライバーでも真直ぐにとぶ人はいいが、左右にスライス、フックのでる人はすぐO・Bという有様で、仲々スコアメイクにはむずかしいコースである。来年の県アマチュア大会に備えてグリーンの改造が数ヶ所で行われており、グリーンも仲々むずかしく簡単に3パット4パットが出てしまう。またドッグレッグホールも数ヶ所あるためにこのコースに初めて見参した人にとっては誠にねらい所がわからない場所も多々あった。

INのスタートホールは一部が駐車場となったためコースを改造し、ミドルホール(パー4)からショートホール(パー3)となった。こちらもOUTと同様に左右が狭隘であり、正確なティショットが要求されるホールが殆どであり、ティショットにアイアンを使用する人が多かったようである。以前に池があちこちにあったが殆どうめ込んだりしてコースをかなり改造しているという。古い歴史(昭和44年8月の開場)をもつゴルフ場でもあり、試合が終わって表彰式が行われたクラブハウ

スも狭くなって、いづれ改装の予定であるという。

軽い一品料理をつまみながら成績発表となったがふだんこのコースを使い慣れている地元一関市医師会の先生方の上位入賞者がヤケに目立っていたが、団体戦の優勝はレディース及び壮年の部での活躍により次期開催地の花巻市医師会の連続優勝でもあった。

今回は9月末頃紫波町の岩手ゴルフ倶楽部新山コース(昭和37年9月開場)を予定しているという。次期開催地として瀬川花巻市医師会長の挨拶があり、ぜひ多数の参加を心待ちにしているとの御言葉があり、夕やみせまる頃散会した。年々参加者の増えつつあるこの大会ではあるが今回は県南であらかじめコース状況を知っている人は遠慮したのか例年より参加者は少な目であった。

次回の上位を目指してこれからのトレーニングが大切と思われます。当医師会でもゴルフ愛好の同志はぜひ多数参加しましょう。

一岩手郡医師会関係成績一

◎ 青年の部(昭和17年生まれ～)

O I G H D N E T

及川忠人 52 59 111 22.8 88.2

◎ レディースの部

坂井洋子 54 55 109 25.2 83.8

◎ 壮年の部(昭和3年～昭和16年生まれ)

嶋 信 47 41 88 13.2 74.8

坂井博毅 42 47 89 13.2 75.8

瓜田明義 61 54 115 27.6 87.4

◎ シニアの部(昭和2年生まれ以上)

参加者なし

◎ 団体戦(NET 上位5名の合計による)

岩手郡医師会 410

随想

いろいろのいろ

雫石町 高橋 孝

最近花もバイテクの進歩により、また外来種が多く入っているためか色も形も観たことのないものが出て来た。在来種でも白いリンドウを始め数年来色が変わった新しい品種が多い様に思われる。平成2年7月に機会あって雫石町公民館にて「かな書作展」を開く事が出来た。かな書展には昔から女手によるものが多いためか、必ずと言って良い程に野の花が添えられる。私も夏の暑い日、又スポットで書を照らすため花が悪くなるために二週間のあいだセッセと花を探しては生け変えた。花は野の花に限られているために花が少なくて困っているときに、婦長が紅色のきれいな観た事のない、清楚で気品のある、一見外国の花を思わせる花を持って来てくれた。これが仙翁と云う花であった。仙翁の鮭色の花と云う言葉があるそうですが、正にサーモンピンクの花で野草との事でした。山地の半日陰の草地に自生し、8月～10月が花期で深紅の美花を開き、花茎は70センチ位伸びるものもあると野草の本には書いてある、バラ等でも似た色があるがこのサーモンピンクは他に観る事の出来ない美しい色であった。水揚げも良く、日持ちもし、昔の茶人に愛された花だろうと思われる。岩泉の方の林の所で採ったとの事で、西島先生に探していただいています。聞けば雫石地方にも昔はあったと老人が話してくれた。過日神戸のかな書作展に北原白秋の歌を書く展覧会があり、その中から「大字がな」の大御所大井流月氏の書による「城ヶ島の雨」を買って求めた。その中に「利久鼠の雨」と云う言葉がある。この利久鼠は色をあらわす言葉である。利久色とは緑色をおびた灰色とのこと。それに鼠色を帯びた色を「利

久鼠」と云うようです。利久鼠の雨はどんな色の雨なのか、頭の中では想像も出来ない、城ヶ島で一度その雨を観たいものと思っている。雫石の方にはその「利久鼠の」の雨は降らないだろうか。

因みに色には「色の白いは七難隠す」女の肌が白のは少しぐらい醜くても美しく見せる。「色は思案の外」男女の恋は常識では判断できず、とかく分別をこえやすい。「色をつける」物事の扱いに情けを加える、売値を安くする、祝儀を出す、景品をそえる等々色々ある。昨日友人の葬儀に出席し、どうして遺影は白黒だろう、多人数の写真から取って拡大した写真は面影すらないことがある、死んだ人の顔写真はあまりはっきりしないほうが良いのだろうか、今は写真もカラーの時代で、どこの家にもカメラがあり、カラー写真のネガが一枚や二枚はあるはず、芸能人が死んだときはカラー写真が使われている様だが、一般にも使われたら生前のことを思うにつけても、より鮮明に思い出されるのでは、等考えながら、両手に引出物を持ち、耳に空しく履きなれない黒い靴のコツコツと云う音を聴きながら家路へついた。

尚、雫石地方にも自生していると云われる仙翁を、私の願いを聞いて下さり、雫石在住の高山植物、稀有植物愛好家のK、K嬢が山奥から採取して来てくれた。今では非常に珍しく貴重な植物で、ナデソコ科の多年草で、古く中国から伝わり、山地に自生しているのは、フングロセンノウで、節から切り土に挿すと根がつくようです。来年の7、8月頃の開花を楽しみに待っています。

☆最近の話題から

- 平成4年春には救急救命士誕生か
—厚生省の救急小委が最終報告書—

厚生省の救急医療体制検討会（浅野献一座長）の小委員会（大塚敏文小委員長）は5日、「救急救命士」の国家資格などを内容とする最終報告書を同検討会に提出、検討会の了承を得た。厚生省は、資格制度創設の法案を次期通常国会に提出するが、「救急救命士」の誕生は一番早い救急隊員の特例の場合、平成4年春にも可能としている。

「救急救命士」は、「医師の指示の下に、救急現場から医療機関に搬送するまでの間に、救急救命処置を行う」者と位置づけられ、ドクターカーのスタッフ、救急隊員、将来的には民間救急の乗員を想定。受験者は、高卒3年以上の救急に関する教育（2,000時間）を受けた者に限られる。自民党案の「救急医療士」が「救急救命士」になったのは「全ての医療行為ができるのではない」ためと厚生省の篠崎指導課長は説明している。

- レセプト電算処理のレセプト提出は選択制を採用
—厚生省の堤保険課長—

第5回「医療とニューメディア・シンポジウム」が22日、東京都医師会の主催で開催された。厚生省保険局の堤修三保険課長、日医の中村努常任理事とともに、レセプト電算化を積極的推進の方針を改めて強調。厚生省、日医、支払基金が進めている技術評価試験のパイロットスタディ移行時期には触れなかったものの「将来展望」として堤課長は、電算化は診療内容の審査につながらないことを強調、また、コンピューターアレルギーのある高齢医師などへの便宜を図るため、レセプト提出をフロッピーで行うか、紙で行うかは「あくまでも医療機関の選択制にする」として、年間約10億枚とされるレセプト処理の合理化に理解を求めた。

- 地域医療・福祉は地域主義、現場主義で展開
国保地域医療学会で、助言者として出席した厚生省の伊藤老健福祉部老健課長は高齢化社会の進展に伴い、「在宅ケアのニーズが高まり、医療・介護・福祉サービスを含めた連携が最大の課題になる」と、地域医師会等に対し、老人にどのようなサービス提供が必要かを

判断するケース・マネージメントの役割を果たすよう要請する一方、在宅介護支援センターを将来的には在宅ケア支援センターに発展させたい意向を表明した。

- 日医廃棄物処理費用の公費負担を要請

感染性医療廃棄物については、不法投棄事件が多発するなかで法律上の規定がなく、厚生省医療廃棄物処理対策検討委員会は昨年、感染性廃棄物処理のガイドラインを作成し、指導強化を図ったが徹底せず、法整備の必要が改めて指摘されてきた。現在、中小の医療機関から排出される廃棄物は、院内で非感染化した上でいわゆる「あわせ廃棄」として、市町村が一般廃棄物に併せて処理している。日医の要請は、大規模医療機関から排出される「産業廃棄物」と「あわせ廃棄物」を「医療用廃棄物」に一括して市町村が管轄するよう求め、「企業と違って価格に転嫁できない」廃棄に係る費用を「公費で措置すべき」としたものの。

- 入院医療管理料は療養型病床群に一つの叩き台か？
—伊藤老健課長が所信—

厚生省老人保健福祉部の伊藤老健課長は20日、介護力強化病院の今後の方針を示すとともに、老健審老健施設部会で見直し審議に入った老健施設の位置づけ等について、入院医療管理料を選択して特例許可老人病院で共通して「投薬量、注射、検査がかなり減り、なかでも脳循環、抗生物質が半減した」とし、将来的な老人診療報酬を考える上では、これが「大きな柱になる」と述べ、医療法改正案の療養型病床群の診療報酬体系を論議する場合も「入院医療管理料が一つの叩き台になる」と予測、入院医療管理料の考え方を拡大していく方針を示唆したものの。

伊藤課長は、入院医療管理料が老人医療全体の定額体制導入につながるのと指摘を否定、あくまでも老人病院の介護力強化が目的だと強調したものの、8月末現在での66の介護力強化病院では投薬、注射、検査が減少、「患者に食欲が出て、容体も良い」などの効果とともに、収益面での評価を受けていることも指摘。厚生省としても「老人診療報酬の柱」とし、介護力強化病院を普及させる方針を改めて示した。ただ、「必要な検査、投薬までもダメというものではない」とも老人の状態を評価して、「医療偏重から福祉、在宅に移行する」対策路線を改めて説明した。

新入会員自己紹介

◎ 氏 名：生田孝雄（県立沼宮内病院）
 年 令：49才
 出身地：北海道札幌市
 出身校：岩手医科大学
 診療科目：内科（消化器ほか）
 勤務時期：平成2年6月1日より
 趣 味：スポーツ、ゴルフなど

◎ 氏 名：奈良坂重樹（県立沼宮内病院）
 年 令：51才
 出身地：宮城県石巻市
 出身校：岩手医科大学
 診療科目：外科（一般、消化器）
 勤務時期：平成2年6月1日より
 趣 味：野球、花作り、釣りなど
 [ひとこと] 15年間の山田町での単身赴任を終えて、自宅より通院可能となりました。

《お 知 ら せ》

- 第8回岩手県医師会親睦スキー大会中止について
 暖冬のため今回の開催準備が出来なくなり中止と決定。
- 生涯教育の申告書提出にご協力下さい!!
 おかげ様で一部の先生よりは毎月頂戴しておりますが、一方ご提出のない方もあります。ご面倒でも一ヶ月分をとりまとめてご記入の上毎月初めに提出下さるようお願い致します。（事務局より）

- 第1回東北医師会連合会主催の「健康スポーツ医学講習会」参加について
 期 日：平成3年2月10日(日)～11日(祭)
 2月16日(土)～17日(日)の4日間開催
 会 場：岩手県医師会館4階大ホール
 受講料：17,000円(1名)
 詳細については「いわて医報」'90.12月号とじ込み参照のこと。

編 集 後 記

- 学術講演会での高橋伸一郎先生のお話しは、本人もプロボクサーを経験してのことでもあって、なかなか迫力があり、また若い選手を育成する過程での医学知識の有無は最も説得力があるのではないのでしょうか。今後の選手の育成にも期待が大であります。頑張ってください。また、小沼富男先生は前にお話しいただいたときの約束を果たしていただき本当にありがとうございます。貴重な一日を弘前からおいでいただき、来る途中での車窓からの岩手山の印象がとても素敵だったこととお話ししておりましたが、また場所もその麓であり、講演の内容も進歩する最近の話題をとり上げていただき、非常に解り易く、丁寧に語りかける話しぶりには好感がもたれました。

- 「おらほの先生」は某先生事務職員に原稿依頼をしましたが、どうしても書けませんと断られ、次回にお願いすることとし、今回は休載となりましたことをお許し下さい。今後もそれぞれの地区に、アトランダムにお願いしますのでよろしく御協力下さいませようお願いします。

○ 高橋孝先生の野草のお話し、ふだん何気なく通り過ぎる道端或は山に登ったときに見られるいろいろの野草の花々は確かに多種類であり、その花々の色も数多いのにはびっくりするばかりです。皆さんもこの一文を見ながら、ふと野草花に興味をもって追跡される機会がありましたら参考にして下さい。

貴重なお話しありがとうございます。

(M. S 記)